

## 「改訂第 5 版 救急診療指針」訂正のお知らせ

ご好評をいただいております『[改訂第 5 版 救急診療指針](#)』（監修：日本救急医学会／ISBN：978-4-89269-945-0）におきまして、下記の通り訂正箇所がございますので、お知らせ申し上げます。

お客様には多大なご迷惑をお掛けいたしましたこと、伏してお詫び申し上げます。

---

### 【訂正箇所】

p.529 「中毒各論」 右段・上から 12 行目

**誤** 「炭酸水素ナトリウムの投与で**尿**のアルカリ化を図る。」

**正** 「炭酸水素ナトリウムの投与で**血液**のアルカリ化を図る。」

(2018 年 4 月 17 日)

p.151 「超音波検査」 右段・下から 5 行目

**誤** 「循環血液量が**減少**していれば、下大静脈径の呼吸性変動は低下する。」

**正** 「循環血液量が**増加**していれば、下大静脈径の呼吸性変動は低下する。」

p.292 「胸痛」 左段・下から 2 行目

**誤** 「12 誘導心電図で**II**誘導以上に」

**正** 「12 誘導心電図で**2**誘導以上に」

(2018 年 5 月 25 日)

p.208 「大動脈遮断用バルーンカテーテル挿入」 左段上 「図VI-2-F2」

図VI-2-F2 内の aortic Zone の表記に誤り。「aortic Zone II」と「aortic Zone III」の**位置が逆**になっている。

**誤** 「aortic Zone **II**」 「aortic Zone **III**」

↓                    ↓

**正** 「aortic Zone **III**」 「aortic Zone **II**」

※本文中（p.207，右段下から 9 行目）の説明書きが正しい。

(2018 年 6 月 21 日)

p.235「腹腔穿刺・腹腔洗浄」 右段上「表VI-2-M1」

表VI-2-M1内の「腸管損傷」の判定基準表記に誤り。

**誤**「腹腔内出血が**陰性**の場合 WBC $\geq$ RBC/150」

**正**「腹腔内出血が**陽性**の場合 WBC $\geq$ RBC/150」

p.672「急性肝不全」 右段・下から2行目

**誤**「遅発性肝不全 (late onset **acute liver** failure ; LOHF)」

**正**「遅発性肝不全 (late onset **hepatic** failure ; LOHF)」

(2018年7月9日)

p.196-197「緊急ペーシング」 p.196 右段・最終行から p.197 はじめの2行

**誤**「いずれも設定閾値の再調整を行い、オーバーセンシングでは**設定閾値を低下させ**、アンダーセンシングでは**設定閾値を上昇させる**。」

**正**「いずれも設定閾値の再調整を行い、オーバーセンシングでは**感度を鈍くするためにペースメーカーのセンシング閾値を上げ**、アンダーセンシングでは**感度を鋭くするためにペースメーカーのセンシング閾値を下げる**。」

(2018年9月5日)

p.247「減張切開」 右段・上から12行目

**誤**「wick **catherter**」

**正**「wick **catheter**」

p.247「減張切開」 右段・上から19行目

**誤**「**ピンクリップ**テスト」

**正**「**ピンプリック**テスト」

(2018年10月5日)

なお、以上の訂正につきましては次回増刷（5版2刷）時に反映予定となっております。

---

#### 【更新履歴】

2018年10月5日：p.247「減張切開」の誤記について揭示

2018年9月5日：p.196-197「緊急ペーシング」の訂正について揭示

2018年7月9日：p.235「腹腔穿刺・腹腔洗浄」 右段上「表VI-2-M1」内の「腸管損傷」の判定基準表記の訂正、p.672「急性肝不全」の訂正について揭示

2018年6月21日：p.208「大動脈遮断用バルーンカテーテル挿入」 左段上「図VI-2-F2」訂正について揭示

2018年5月25日：p.151「超音波検査」、p.292「胸痛」の訂正について掲示

2018年4月17日：p.529「中毒各論」の訂正について掲示